

三浦地方における天気俚諺*

栗原善作**

1. まえがき

今日、多くの人々は、気象台や測候所から発表される天気予報を聞き、かつ利用している。従って、多年の人間生活の経験から生まれ、使用されてきた天気俚諺は、次第にかえりみられなくなってきた。しかし、これらの中には天気の変り変りを適切に表現しているものも多く、また、その土地の天気の地域性を示したものも少なくない。

近年、局地予報がクローズアップされている折から、筆者は、天気予報に観天望氣法を併用すれば局地的な天気相談に有効であることを知った。そこで、先ず手はじめとして、他地域の俚諺等と比較しながら若干の考察を試みると共に、三浦半島南部の特性である漁業（海難防止）や農業にどのように利用されているか、従来一度も明らかにされていない当地域における天気俚諺の使用の実態を統計的に解析してみた。

2. 資料収集地域とその地理的環境

本地域は、第1図に示しているように、神奈川県三浦半島の最南端であって、西に相模湾と伊豆半島、東に東京湾と房総半島をひかえた一帯である。

資料収集の町村の面積は30.68km²、人口約43000人で、人口密度は少ない。また田・畑と山林で総面積の約67%を占め、農・漁業の世数が、総世帯数の約60%を占めている。

3. 資料の収集方法

筆者が収集した天気俚諺69種を列挙印刷し、市内の各中学校に配布、依頼した。

調査方法は「使用しているものには○印、聞いたことがあるものには△印、聞いたことがないものには×印を、またこの他に使用しているか、または知っている俚諺があれば記入してもらおうという方法を取り、収集した俚諺は270となり、その中で同一の俚諺と考えられるものを極力まとめ、結局、最終的にまとまった俚諺の数は158



第1図 資料集収地域

種になった。

記入は、家族の年輩の者に依頼し、記入提出してもらった。記入に参加した人の平均年齢は50才、職業別パーセントは、農業(47.5%)が多く、次いで漁業(32.1%)、勤人(9.1%)商業(6.4%)その他(4.9%)の順となっている。

4. 三浦地方の天気俚諺

(1) 雨に関するもの

1. 大山しぐれに隣のぼたもち
2. 大山しぐれは来るようでこない。

前者はかならず来るの意味であるが、今日では後者の方が現実性がある。筆者の経験では、県北の雷雨が三浦半島南部まで達することは殆んどない。大山から富士山あたりに向け雷雨が連らなっていると横浜あたりまで雷雨が降る³⁾といわれている。

三崎郷土史考⁴⁾の一節に「……三浦義同は、父を殺した戦いのいやな思出の新井城(油壺)を我が子荒次郎に託して、雨降山下の岡崎崎へ去った……」とある。雨降山は、今の大山、阿夫利神社のある山で、阿夫利(あふり)は雨降りの転呼とのことである。

3. 朝トンビが鳴くと雨(朝トンビみのかさ)

* On the Weather Proverbs of Miura District in Kanagawa-ken

** Zensaku Kurihara, 神奈川県漁業気象協会
—1965年9月20日受理—

4. カニが家の中に入ると雨

房州の俚諺²¹⁾に「かにが海岸から離れて陸の方に穴を掘ると時化が近い」がある。

5. 汐が満ちてくるときの雨は止まない

潮汐に関して俚諺として「西風は上げ潮ばなで吹き易い」²²⁾があるが、網仲氏が検証した結果あまりよくあたらぬとのことである。

6. 10月の1夜西風2夜吹けば雨

7. 夏の南風は宵こせば雨

8. 冬空赤雲り雪

9. ふゆの雨は皮4回

10. もぐらが土をおこすと雨

11. 1日に降り出した雨は3日降る。

房州増間地方には「朔日(ついたち)に雨が降ると3日目に又降る」²³⁾というのがあり、3日降るといのは「3日目に限る」が誤り伝えられたのではなからうか? いわゆる天気の周期性に関する俚諺と思われる。

12. 夜雨があると3日もたぬ

13. 日の出の雨はみの脱いで待て(朝雨にみのかぶるは)(朝雨はてりのもと)(朝雨と女の腕まくり)

房州に「早朝の雨はすぐ止み、夜中に止んだ雨は又すぐ雨になる」²⁴⁾がある。

14. ツバメが地面すれすれに飛ぶと明日は雨

ツバメが地面すれすれに飛ぶということは、小虫を食べに下りてくるわけで、小虫が下におりていることは上空ではすでに風が強く吹いており擾乱が近づいていることを物語る。

これと似た俚諺と役立つものに「ブヨが下り降りると雨が近い」、「虫類が低く飛ぶのは風の兆し」²⁵⁾があり、大後氏の説明によれば、低気圧が近づいてくると地上の風は弱くとも、少し高い所ではすでに風が強くなっているので、小さい虫は風の弱い下方へ降りてくるという。

15. いぬいかんだちはおそくも雨が降る

戌亥の方向(北西)から南下する寒冷前線による雨のことで、かんだちとは急にくる雷雨の意である。房州に「いぬいかんだちおそくもござる」や「大島かんだち一度はござる」²⁶⁾がある。

16. 8月(旧暦)1夜南風, 2夜吹けば雨

似た俚諺に「8月(旧暦)のいっちゃみなみ2日と吹いたらしけと思え」²⁷⁾があり、いっちゃみなとは1晩だけ吹く南風とのこと。

17. 午前中空一面に雲があり、北西の空に細長く下から上に晴れ間のある時は明日必ず雨となる。

これと同類と思われる俚諺に「八方曇りの中天晴れ」²⁸⁾がある。網仲氏によれば、このような現象は主に冬に優勢な寒冷前線が近づき、黒雲におぼれた場合に生じるとのこと。又南西諸島の俗言で「天割れ」という現象があり、これは台風襲来を予知する観天望気法とのことである。

18. 夕方子供が大勢さわぐと明日は雨

19. 宵の時雨は明日の風

20. 富士山の上笠雲があるときは明日雨風

21. 東より雲の流れのある時早い場合は大雨おそい場合は小雨

22. すみ火のもえる時は雨

23. かたつむりが鳴く時は雨

24. 雲が北西に流れると間もなく雨(雲が東から西に流れるとその日に雨)

25. 島が近く見える日は雨が近い(三宅島が見えれば雨)

26. 西がくもれば雨, 東がくもれば風となる

27. ほうき屋さんがくると明日は雨

28. 風の吹き風は雨

29. 彼岸の中日は降る雨も止む

30. 干潮になると雨は止む

31. うじ虫がはい上ると雨が近い

32. かげろうがのぼると近い内に雨

33. 宵上りの雨は長くつゞかない

(2) 風に関するもの

1. 大風かげな

2. 大島に雪が3日あれば西風が吹く(大島に雪がつもれば西風)

3. 若月夜西の風は3日3夜ふきとおす

4. 赤ン坊ナライ

春先北の空が真赤になって突風が襲ってくるのがあり、これに逃げおくれで舟の帰りがおそくなると風の面で神宮に神樂をあげてもらったとのことである。内海氏²⁹⁾によると「海南神社には“風の面”と“雨の面”が宝物として残っており、大風で沖から舟が房らぬときや長雨が降り続いて漁に出られぬとき、それぞれ風の面、雨の面で神に祈願の神樂をあげた」という。

5. 南西又は南東に鳥々雲が出た時強風

6. 十夜西風(にし)

光念寺(洋土宗)の行事の1つに“お十夜”というのがある。この行事は11月3日で、このところから冬の季節風である西の強風が吹きはじめ、漁に出られない日が

多くなる。この風がよくお十夜ころから吹くので土地の人は十夜西風と呼んでいる。

7. 北風は借金がきらいですぐ南風が吹く
8. 西風は夕方に吹くと明日は晴
9. 月にかさがかぶり、中に星の見えるとき風
10. 7月(旧歴)に南風が吹くと75日風が吹く
11. 大島御神火がたおれていれば大風

こゝでいう御神火とは三原山の煙をさしており、これがたおれていれば海上では風が強いという意味である。

房州には「朝、大島の煙が北の方向にたなびいていると日中西風が入る」¹⁾がある。

12. バクチ打ちとナライは夕方は裸
13. 星がキラキラまたたく時近い内に強風
14. カモメが流木に止っていたら大風の前兆
15. 富士山頂に冬は雪、夏は雲を吹き上げるときは風が強く吹く

16. 大島方面に大星があれば明日西風

(3) 台風に関するもの

1. 道芝のくびれが沢山あると台風がくる

同じような俚言²⁾に「みちしばのくぐれ(節)の数だけ台風が接近する——房州」, 「風草(みちしば)の茂り多き年は暴風あり」, 「道草に節3つあればその年に年大風3回あり」, 「しけぐさ(風草)の葉に節ができると暴風あり、その節の数は暴風の回数を示す」等がある。

2. 蜂が高い所に巣を作ると大水、低い所に作ると大風

「蜂が巣を高い所に作ると台風こない、低い所に作ると台風くる」というのが房州³⁾にある。

3. 長浜の海が鳴ると台風はこない
4. 下浦の海が鳴ると必ず台風が来る
5. 海鳴りがり、2、3日後に台風来る

(4) その他

1. サガナライの風かよ、繩船殺し

房州の西岬地方に「サガの風かよ繩船ころし」²⁾がある。どちらも意味は同じで北西の季節風をいっている。当地方の冬の季節風は西風であるが、沖合に出ると北西風で10~20m/s位になる。

今日、繩船と称しているのは鮪船のことであるが、三崎沿岸九十年誌³⁾によると、明治以前は他の魚種も延縄でとっていたという。大正以後、鮪船は動力化され、漁場も八丈島から銚子沖にまで及び、第次に行動範囲が広がっていったという。

従って、冬季のサガナライによる遭難も多く、三崎港

を根拠としていた和歌山県串本港の鮪船良栄丸は大正15年12月12日暴風のため遭難し、昭和2年12月15日ミイラとなった2船員の遺体とバラバラになった8船員の白骨を乗せてロスアンゼルス海岸に漂着している。これと似たケースとして、アメリカのバンクーバ海岸に房州の船(全員白骨)が漂着している²⁾。

2. 日の出た太陽が水を持つと近い内に時化となる。
3. 朝虹に船出すな

これは漁業者によく使用されている俚諺で、房州には「朝の虹は天気悪く、夕虹は天気良くなる」とある。これについて網仲氏³⁾は朝の虹は西の方で雨、夕方の虹は東の方で雨を指し、天気は西の方から移ってくることから考えれば、西の方で雨が降っていれば雨が近づいてくる。東の方での雨はすでに悪天は去り天気は回復に向う兆といっている。

4. 星が出ていて雲が1つもなければ2、3日のうちに時化になる。

5. 六ツハツ風に九ツは病5ツ7ツは雨

六ツは昔の時刻で暮六ツ、明六ツの意で、このような時刻に地震があると風、雨や病になるという。

6. 赤トンボが沢山飛ぶと晴

7. 冬南東方面が海鳴りすれば雨、南西方面が海鳴りすれば風、北北西が海鳴りすれば雪

8. 雪降りの明日は裸坊のせんたく

裸坊のせんたくとは晴の意とのこと。

9. 東海の風が吹くと時化が近い

10. 夏の夕焼け鎌とぐな、秋の夕焼け鎌といでまで

11. 朝もやのときは後に良い天気

12. 今ヨリ30年前「ろ」デ舟ヲ走ラセル頃ハ午前1時ヨリ3時頃マデ海鳴リ又ハ山鳴リノ方向ニ依テ其ノ日ノ天候ヲ判シテ出漁シタ

これは現在でも使用しているとのこと。

三崎郷土史考⁴⁾に「入船に観音様のある小高い山がある。この観音山を日和山と呼んだ(三崎志山林の項、一名照臨山、土人此山=登り日和ヲ親知ル故=名付ク……)。天候に左右された漁師の日和を見る山はどこの後背地の丘にもあった。これは遠くが見える外に海の鳴りが聞えるためでもあった。どっちの方向で鳴りが聞えるかによって風向と晴雨が予知できた」とある。

房州では「早朝、海鳴りの聞える方向がその日の風向」²⁾といわれており、風の吹いている場合に、鳴りが薄らぐと間もなく風も弱まり、鳴りが衰えないと風勢もなかなか弱まらない。更に、前日の夜静かで海は凪いで

第2表 本地域でよく使用されている俚諺

番号	天 気 俚 諺	使用パーセント
1	夕焼けは明日の晴	85
2	月がかさをかぶった時は雨になる	75
3	雷が鳴ると梅雨が明ける	70
4	星が多く出ると明日は晴	69
5	朝霧が深い時は晴	63
6	雪の明日は晴	63
7	朝焼けはその日の雨	57
8	雨の降っている内ににじが出ると間もなく晴	57
9	雲が早くとぶとその日は風	57
10	雨蛙が鳴くと明日雨	53
11	にじが出ると天気良し	52
12	地震があったあとは天気が変わる	52
13	秋冬は西の方が明るければ晴	52

諺13種及び10%以下の俚諺24種を示した。

これらからわかることは、

①自然現象、動物、植物及びその他の4つの分類の中で、自然現象により天気を判別する俚諺の数が在倒的に多く、総数の約65%を占めている。この中でも風や空模様により判別する俚諺の数が特に多い。

②植物により天気を判別する俚諺が非常に少ない。

③本地域においてもよく使用されている俚諺は、普遍性をもつ俚諺、すなわち、どこでも聞かれ、かつ使用されている俚諺が非常に多く、殆どどの俚諺が気象学的に根拠のあるものである。あまり使用されていない俚諺は、他域においても使用されていない俚諺が多く含まれており、しかも気象学的根拠に乏しい俚諺が多い。

(2) 地域的にみた俚諺の使用状況

調査地域内の全域にわたって広く使用されている俚諺と、調査地域内の特定の地域にのみ使用されている俚言とに分け、それぞれ第4表及び第5表にまとめた。

これらをみると、全域にわたって広く使用されている俚諺は、使用パーセントの大きい俚諺(第2表)と共通する俚諺が多いことがわかる。一方、特定の地域にのみ使用されている俚諺については、使用地域による区分をするほど明確にはわからないが、強いて分けてみると、1, 5, 10, 11及び12は三崎地区、2, 3, 4などは三崎地区と南下浦の一部で使用されており、6, 7, 11は南下浦地区、8と9は初声地区で使用されている。

これらは地域のおかれていた地理的条件を反映して生

第3表 本地域であまり使用されていない俚諺

番号	天 気 俚 諺	使用パーセント
1	星がない時は晴れる	1
2	カラスが巣に帰らないと雨	1
3	犬(猫)が草をかむと大風	3
4	かぼちゃのつるの多い年は大風	3
5	朝飯を食べている時、茶わんに飯がつくときは、その日は雨	3
6	夕ばとなげばカマをとげ、朝ばとなげばその日の洪水	3
7	流れ星が南の方へ向いてゆけば雨、西の方へ向いてゆけば晴	4
8	馬のしきわらがかわくと雨	4
9	茶柱が立つと雨になる	4
10	彼岸後の西風は大洪水	5
11	よしきりが鳴くと時化する	5
12	夜ガラスが鳴くとどんな風も止んでしまう	5
13	のみを火に入れて音がすると晴	6
14	八十八夜の西風は75日後に大水が出る	6
15	西風が吹くと雨	6
16	海鳥が朝早くエサをあさると時化する	7
17	オシヤカ様(旧4月8日)に雨が降るとその年はひでりになる	8
18	土用3日に天気が悪いと土用中天気が悪い	8
19	みみずが朝出ると雨	9
20	晴天雲なし、3日中に雨あり	9
21	みみずがはい出すと晴れる	9
22	朝ににじに船出すな	9
23	寒雪はその年の凶作	9
24	朝もやはその日の雨	10

第4表 全地域にわたって使用されている俚諺

番号	天 気 俚 諺
1	富士山に笠雲ができたとき明日雨又は風
2	夕焼けは明日の晴
3	朝焼けはその日(近い内)の雨
4	月がかさをかぶったときは雨になる
5	太陽がかさをかぶったときは雨になる
6	蜂が高い所へ巣を作ると大水、低い所へ作ると大風
7	大山時雨はくるようでこない

8	宵時雨は明日の風
9	ほうき屋さんが来ると明日雨
10	つばめが低く飛ぶと雨
11	雨蛙が鳴くと明日雨
12	雨の降っている内に、にじが出ると間もなく晴
13	西風の吹く日は晴
14	星が多く出ると明日晴
15	西の空が晴れると天気よくなり、曇ると悪くなる
16	雷が鳴ると梅雨が明ける
17	朝霧の深い時は晴
18	雲が早く飛ぶとその日は風
19	雪の明日は晴
20	稲葉に夕つゆ多きときは晴
21	秋、冬は西の方が明るければ晴
22	夜寒ければ明日晴
23	猫が手を耳の方までかけて顔を洗うと雨
24	雷は北方からはなかなかこないが、南西方からはきわめて早く来る
25	汽笛がよく聞こえたと近い内に雨 (サイレンがよく聞こえたと近い内に雨)

第5表 特定地域のみで使用されている俚諺

番号	天気俚諺
1	道芝のくびりが沢山あるときは台風が来る
2	三宅島が見えれば雨
3	大島御神火がたおれていれば大風
4	鋸山の上に笠雲ができたときは雨
5	冬、南東方面が海鳴りすれば雨 南西方面が海鳴りすれば風 北々西が海鳴りすれば雪
6	根魚が綱に入ると波が立つ
7	午前中に空一面に雲があり、北西の空だけが細長く下から上に晴間のあるときは明日雨
8	下浦の海が鳴ると台風が来る
9	長浜の海が鳴ると台風はこない
10	カモメが流木にとまっていたら大風の前兆
11	とうもろこしの根が高く張るときは大水、低いときは大風
12	赤坊ナライ
13	サガナライの風かよ縄船殺し

じた俚諺の使用分布と考えられる。

(3) 職業別にみた俚諺の使用状況

本地域では、農業(47.5%)と漁業(32.1%)とに大

第6表 農業者によく使用されている俚諺

番号	天気俚諺
1	夕焼けは明日の晴
2	月にかさをかぶったときは雨になる
3	雷が鳴ると梅雨が明ける
4	朝焼けはその日(近い内)の雨
5	富士山に笠雲ができたときは雨又は風
6	星が多く出ると明日は晴
7	雪の明日は晴
8	雨の降っている内に、にじが出ると間もなく晴
9	西風の吹く日は晴
10	雨蛙が鳴くと明日は雨
11	西の空が晴れると天気よくなり、曇ると悪くなる
12	朝霧の深いときは晴
13	地震があった後は天気が変わる(六つ、八つ風に九は病、五七の雨に四つひでり)
14	秋、冬は西の方が明るければ晴
15	夜寒ければ明日は晴
16	朝雨にのみかぶるな(朝雨と女のうでまくり)
17	猫が手を耳の方までかけて顔を洗うと雨
18	げたを投げて表が出ると晴
19	稲葉に夕つゆ多きときは晴
20	冬の南風一里ともたぬ
21	ほうきやさんが来ると明日雨
22	蜂が高い所に巣を作ると大水、低い所に作ると大風
23	大山時雨はこない
24	房総半島が近くに見るときは近い内に雨

きく区分されるので、これらの俚諺の使用状況をみると、第6表及び第7表に示したとおりである。これらを見てわかるように、大半の俚諺は両者に共通しており、漁業の方では、13、14、16及び17というように風(西風)に関するものが目立ち、一方、農業の方は晴雨に関するものが多い。

(4) 気象学的根拠からみた俚諺の使用状況

158種の俚諺の中から気象学的に根拠があると考えられる俚諺及び根拠がないと考えられる俚諺を、それぞれ第8表及び第9表にまとめた。8表、9表に示した以外の俚諺は、気象学的に多少根拠があるか、または気象学的説明のつけ難いものである。さらにこれらの中から、10種ずつ抽出した各俚諺を各部落ごとに「使用」、「不使用」のパーセントを算出し、気象学的に根拠があると考え

第7表 漁業者に多く使用されている俚諺

番号	天 気 俚 諺
1	夕焼けは明日の晴
2	雨の降っているうちに、にじが出ると間もなく晴
3	富士山に笠雲がかかっていると明日雨又は風
4	西風の吹く日は晴
5	星が多く出ると明日は晴
6	朝霧が深いときは晴
7	雪の明日は晴
8	月に笠をかぶったときは雨になる
9	雷が鳴ると梅雨が明ける
10	秋、冬は西の方が明るければ晴
11	西の空が晴れると天気が良くなり、曇ると悪くなる
12	朝焼けはその日(近い内)の雨
13	東海の風が吹くと時化が近い
14	大島御神火がたおれていると大風
15	ほうき屋さんが来ると明日は雨
16	大島(三原山)に雪が3日あれば西風
17	宵時雨は明日の風
18	蜂が高い所に巣を作ると大水、低い所に作ると大風
19	朝にじに船出すな
20	赤坊ナライ
21	サガナライの風かよ、縄船殺し

第8表 気象学的に根拠があると考えられる俚諺

番号	天 気 俚 諺
1	夕焼けは明日の晴
2	朝焼けはその日(近い内)の雨
3	夏海、秋山(夏は東の方、秋は西の方の空が晴れているとき天気が良いの意味)
4	秋、冬は西の方が明るければ晴
5	月がかさをかぶったときは雨
6	太陽がかさをかぶったときは雨
7	汽笛(サイレン)がよく聞こえる近い内に雨
8	朝にじに船出すな
9	冬の南風一里ともたぬ
10	稲葉に夕つゆ多きときは晴
11	雷は北方からはなかなかこないが、南西方からは早くくる
12	富士山に笠雲ができたとき明日雨又は風
13	東よりの風が強く吹くと雨が近い

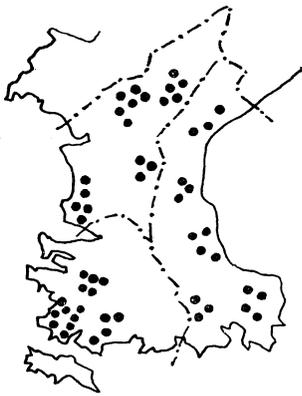
14	房総半島が近くに見えるときは雨
15	富士山頂に冬は雪、夏は雲を吹きあげるときは風が吹く
16	富士山がよく見えると晴で風強くなる
17	大島御神火がたおれていれば大風
18	東海の風が吹くと時化が近い
19	西風の吹く日は晴
20	星がまたたき(ちらちら)すると近いうちに雨
21	煙が西へなびくと雨、東へなびくと晴
22	海鳴りが聞こえると天気悪くなる
23	西から東へと雲が移動すると晴、東から西へと雲が移動すると雨
24	サガナライの風かよ縄船殺し
25	赤坊ナライ
26	十夜西風
27	つばめが地面すれすれに飛ぶと明は雨
28	いぬいかなだちおそくも雨が降る

第9表 気象学的に根拠がないと考えられる俚諺

番号	天 気 俚 諺
1	寒雪はその年の凶作
2	西風が吹くと雨が降る
3	彼岸後の西風は大洪水
4	八十八夜の西風は七十五日後に大水がでる
5	月の近くに星がでると2日くらいうちに雨
6	流れ星が南の方へ向いていけば雨、西の方へ向いていけば晴
7	流れ星が西に落ちると明日は西風が吹き、南へ落ちると南風が吹く
8	犬(猫)が草をかむと大風
9	馬のしきわらがかわくと雨
10	のみを火に入れて音がすると晴
11	オシャカ様(旧4月8日)に雨が降るとその年はひでりになる
12	土用3日に天気が悪いと土用中天気悪い
13	茶柱が立つと雨になる
14	げたを投げて表がでると晴
15	けらが家の中へ飛んでくると天気悪くなる
16	かぼちゃのつるの多い年は大風
17	ほうき屋さんがくると明日雨
18	カニガ家の中に入ると雨
19	屋顔を家の中に入れると雨
20	すみ火のもえるときは雨
21	朝顔の花をとると雨
22	人がめずらしいものを持ってくると雨

- 23 人物にかわったことがあれば雨
- 24 夕方子供がさわぐと明日雨
- 25 うじ虫がはい上ると雨になる
- 26 浜朝顔をとりと雨が降る

えられる俚諺の使用度が50%以上であり、しかも根拠がないと考えられる俚諺の使用度が50%以下である部落（●印）及び気象学的に根拠があると考えられる俚諺の使用度が50%以下で、しかも根拠がないと考えられる俚諺の使用度が50%以上である部落（×印）の分布を第2図に示した。



第2図

これによると、本地域における俚諺の使用は、全地域共気象学的に根拠があるか、または多少気象学的に根拠のあるものを使用しており、気象学的に根拠があると考えられる俚諺の使用度が50%以下で、しかも根拠がない

第10表 気象学的根拠からみた俚諺の職業別使用度

職業	気象学的に根拠があると考えられる俚諺の使用パーセント	気象学的に根がないと考えられる俚諺の使用パーセント
農業従事者	48	8
漁業従事者	43	7

と考えられる俚諺の使用度が50%である部落は皆無であった。従って、落部別の優劣はつけられない。

次に、職業別について考え、農業従事者及び漁業従事者について、気象学的に根拠があると考えられる俚諺及び根拠がないと考えられる俚諺を、それぞれ10種抽出し、その使用状況を整理した結果、第10表のようになった。これをみてもわかるように、両者の差は僅少であり気象学的根拠からみた俚諺の使用状況の差異は明確でない。

6. あとがき

資料はまだ不十分ではあるが、この研究をとおして本地域における天気俚諺やその使用の実態がわかった。今後これらの俚諺をとおして、生きた気象学を身につけ、かつ天気予報をより有効に利用することによって海難防止や農業に役立てたいと思う。

終りに、常日頃御指導をいただいている生沼横浜地方気象台長並びに職員の方々、永井神奈川県漁業気象協会長、川崎同理事の御厚意に対して感謝の意を表します。

尚、本研究を進めるにあたって資料の収集に御協力をいただいた三崎中学校、初声中学校及び南下浦中学校、また終始御協力をいただいた三崎港報社松崎記者、資料の整理をしていただいた斉藤君に対し厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 網仲七之助(1963): 房州地方の天気俚諺. 千葉県南部防災気象連絡会, No. 42pp.
- 2) 網仲七之助 (1964): 房州地方の天気俚諺 (其の2), 44pp.
- 3) 内海延吉編(1961): 沿岸漁業九十年誌. 三崎沿岸漁業協同組合連合会, 557pp.
- 4) 内海延吉(1954): 三崎郷土史考. 郷土史発行後援会, 300pp.
- 5) 菊池繁雄, 尾崎康一, 山口亨, 宮園実康 (1964): 北九州における海難防止に関する天気俚諺, 天気 11, 131~137ならび11, 166~172.
- 6) 井坂末松(1965): 霞が浦東岸地域における天気俚諺, 天気, 12, 55~60.